



沖洲小学校だより

R7 - No.1

2025年5月2日発行

徳島市沖洲小学校

学校生活に慣れてきた1年生

早いもので、4月が終わりました。新しい学校に進んだ1年生は、集団ルールや学習の規律を、急速に吸収しています。

「……………このように並びましょう。」

「口々に話すのではなくて、手を挙げて、当てられたら話しましょう。」

「お話をする先生や友達を見て、黙ってお話を聞きましょう。」

「今、机の上には、〇〇をここに、□□をここに置きましょう。」

「プリントのここに、〇〇を書きましょう。」

などなど

新しく覚えること、新しく取り組むことは多いかもしれませんが、これから6年間の学習を支えるルールです。



新しい学年に進んだ上級生についても、すてきな場面に出会います。

ある6年生の話

ある業間休み。終了を知らせる音楽を聴くや、運動場の子供たちが急いで校内へと向かいました。ふと見ると、一人の1年生の子が、登り棒のところでじっとしているように見えます。運動場には、その子だけになりました。「けがをしたのかも。」

「調子が悪いのかな。」急いで、校舎から出て向かおうとした途端、校舎から二人の男子が、1年生の子に向かって走っていきました。そして、やりとりをしてしばらく経った後、三人で校舎の方に帰ってきました。1年生の子は、くつをはきかえて、元気に教室に向かいました。

二人の男子は、6年生でした。自分たちが玄関までもどり、運動場を見たときに、帰ってこようとする1年生に気が付き、何かあったのかもしれないと思い、二人でかけつけたとのこと。どうも、靴下をぬいで登り棒に挑戦していたのか、校舎にもどろうとしたら靴下をはくことに苦戦して動けなかったとのことがあったため、靴下をはくことを手伝い、連れ立って校舎に戻ってきたとのことでした。

気になったことをそのままにせず、確かめ、助けた行動とその心意気に感激しました。

【文責 米田直紀】

